

作品タイトル：「ぼうふざい」

作者名：平野^{ひらの}正喜^{まさき}

2020・11・18

登場人物

- ・理一^{りいち} (23) 宮内庁に勤務する公務員。紺のジャケットにスラックス。白シャツ。
ノーネクタイ
- ・セレナ (24) 理一のツンな幼馴染。黒いワンピースで中に巫女服を着こんでいる。
- ・サヨ (24) 理一のデレな幼馴染。ピンクのワンピースで中に巫女服を着こんでいる。

日曜日の昼下がり。
ちゃぶ台とカラーボックスがあるだけの簡素な理一の部屋。
セレナがちゃぶ台の下手に座ってお茶を飲んでいる。
理一は慌てた様子で自分のバッグやカラーボックスの中を探している。

セレナ ほんとに買ったの？ 夢かなんかじゃないの？
理一 確かに買ったんだよ！番号もメモしといたはず。
セレナ じゃ、そのメモは？
理一 それも見つからないんだ。
セレナ あきれた。

理一はなおも探し続ける。
セレナはスマホでどこかにメッセージを書き送っている。

セレナ やっぱり、夢かなんかじゃないの？
理一 そんなはずないよ！

サヨが入ってくる

サヨ （軽いノリで）あれー？なんかあったの？
セレナ お、早かったね。
理一 （甘えた口調で）サヨー、俺の宝くじ知らない？
サヨ えー？ 知らないけど？
理一 先輩が買ってたのでつきあいで買ったんだけど、なくしちゃったんだよ。
サヨ あらまあ。いっしょに探したげるね。
理一 ありがとー。くうー、サヨは優しい。

理一はセレナを睨むがセレナは無視。
サヨはカラーボックスのなかを適当にかき回す。
理一は自分のバッグの中をもういちど探し出す。

理一 はあ。

セレナは理一の視線が外れたことを確認してからサヨとアイコンタクトする。

セレナ 夢か、無くしたかに決定だな。

理一 当たりそうな気がしたんだけどなあ。うー、ツキに見放されてまもなく24年。

セレナ 生まれてからずっとかい。

理一 知ってるだろ、セレナもサヨも同じ病院で生まれた幼馴染なんだから。

セレナ 生まれた頃のこととはわからないけどね。

サヨ でも、お年玉クジつき年賀状は毎年毎年ものすっごく当たるじゃない、ねえ。

理一 (機嫌を直して) うん、まあねー、来るハガキの半分以上が3等レターセットか4等切手シートに当選だから、切手代とか助かってるよ。

セレナ ツキに見放されてなんかじゃない。

サヨ そうそう。

理一はカラーボックスの中を漁りながらふと思い出す。

理一 あ、そうだ、渡辺先生から貰った年賀状、見た覚えは確かにあるのに、見つからないんだけど、知らない？

セレナ 年賀状も無くしたの？

理一 (また機嫌を損ねて) 無くした、無くしたって言うなよ。

セレナ なんでもかんでもカラーボックスにつっこむからじゃないの？

理一 年賀状はちゃんとまとめておいたんだけどなあ。貴重な切手代になってくれるから。

サヨ そうそう。

サヨは理一の視線が外れたことを確認してからセレナとアイコンタクトする。

理一 なんか他にもなくしちゃってる気がしてきた。うー、ウチにブラックホールでもあるんじゃないのかな。

サヨ 理一くん、そんなに腐ってないで、ね、パチスロでもいこーよ。

理一 そういえば、去年もこんなこと言ってたような。

サヨ ねー、いこいこー。

セレナ おー、行っといで行っといで。

理一 (機嫌を直して) うん、そうしようかな。(セレナにあてつけるように) サヨと一緒に
だと楽しいし。

立ち上がり、サヨに腕を組まれて出ていく理一。ドアが閉まる音。

セレナはスマホで電話をかける。

セレナ (事務的口調で) いつもお世話になっております。宮内庁の真夜です。店長さんで
すね。

今、向かいましたので、いつものように、宜しくお願い致します。

はい。

お手数をお掛けいたします。お礼はいつもの通りで。

はい。

では、失礼いたします。

セレナは電話を切り、独り言。

セレナ さて、これを処分しなきゃね。

セレナは胸元から宝くじとメモを取り出し、ひらひらさせながら部屋を出て
いく。

夜になる。

サヨに腕を組まれて帰ってくる理一。

サヨ なんか、負けそうになると出て、出始めると渋る台だったね。

理一 俺ってさ、なんか、いつもそーなんだよね。

サヨ 楽しかったからいいと思うよー。あたしも楽しかったし。

理一 そうかあ。あ、サヨ、落語の芝浜って知ってる？

サヨ え？

理一 あの主人公の勝^{かつ}って、実在の人物で、俺のご先祖様らしいんだよ。

サヨ え！？

サヨ、本気で驚くがごまかす。

理一 芝浜って知ってるよね？

サヨ 知らないよー。あ、あたし今日は早く帰らないといけないんだった、ごめんねー。

理一 あ、いや、腐ってる時にサヨに逢えると助かるよ。

サヨ うん、任せて。

理一 え？

サヨ じゃ、またねー。

暗転。

下手にスポット。サヨが携帯電話で話している。

サヨ (少し事務的口調で) お疲れ様です。真夜^{まや}です。あ、サヨの方です。

はい、お疲れ様です。取り急ぎ報告です。

はい。

今日、芝浜が話題になりました。

いいえ、教えた覚えはありません。まあ、落語の人気演目ですから、談志あたりの録画でも観たのかもしれませんが。

え？ 歌舞伎ですか？ いいえ、知りませんでした。勉強します。

財布を拾ったことを奥さんが夢だったことにしちゃうという話ですよ。

まさに、理一さんと私達みたいです。

はい(笑)。

え？

え、もうですか？ わかりました。姉と準備に入ります。

はい、気を付けます。

宜しくお願い致します。失礼します。

暗転。

上手にスポット。ネクタイをしめた理一が携帯電話で話している。

理一 あ、サヨ？ こないだはありがとー。

やっば、くさった時にはサヨとパチスロだねー。

いやいや。

あ、今日は残業。くたびれたよー。

今？ アパートに帰るところだけど？

何？ 来てるの？ セレナも？

あ、そかそか。でも、誕生日のイブなんて祝うほどのことじゃないんじゃない？

「キンコン」と音がする。

理一 あ、キャッチだ。ごめんね。

うん、じゃあ、なるだけ早く帰る。

理一、携帯電話を耳から離して終話ボタンを押し、画面の表示を確認して驚きつつ、再度耳に当てる。

理一 はい、^{つちみかど}土御門です。あ、藤原部長、お疲れ様です。

はい。

はい？ え？ 辞令ですか？

はい。かしこまりました。では、明日お伺いいたします。

かしこまりました。

理一、携帯電話を耳から離して終話ボタンを押し怪訝な表情をしつつ、部屋の方へ。

暗転。

ドアの開く音。

明るくなり、理一が部屋に入ってくると、下手で巫女姿のセレナとサヨが床に頭を付けて土下座している。

理一、立ちすくむ。

理一 ごめん、遅くなっちゃって。二人とも待ってた？

え？ え？ いったいどうしたの、そのカッコ？ コスプレ？

セレナとサヨは少しだけ頭を上げて（下を向いたまま）

セレナ 土御門様。

サヨ 土御門様。

理一 え？

セレナ 明日の太政官^{だじょうかん}ご就任、おめでとうございます。

サヨ おめでとうございます。

理一 え？ だじょーかんって何？

セレナ わたくしどもの役目も今夜までとなりました。

これまで数々の失礼を致しましたこと、お詫び申し上げます。

サヨ これまで数々のご無礼を致しましたこと、申し訳ございません。

理一 え？ どういうこと？ 今夜までって？ どっきり？ やめてくれよ。
ねえ、どういうこと？

また、床に頭を付けた土下座になるセレナとサヨ。アタフタする理一。

理一 お願いだから、やめてくれ！ 俺にどうしろというの？ 説明してくれよ！

セレナは少しだけ頭を上げて（下を向いたまま）

セレナ 土御門様、こういう時は「面^{おもて}をあげよ」とおっしゃってくださいませ。

理一 え？ なにそれ？ いつの時代だよ！

サヨも少しだけ頭を上げて（下を向いたまま）

サヨ そうおっしゃっていただければ、私どもも助かります。

理一 え？ 助かるって、どういう意味だよ？

サヨ ですから「面をあげよ」とおっしゃってくださいませ。

理一 わ、わかったよ、言うよ。面をあげよ。これでいいの？

セレナ ありがとうございます。

サヨ ありがとうございます。

セレナとサヨは低姿勢のまま顔を上げ、立ったままの理一を見上げる。
理一は見上げる二人の姿がつかうようなことに気づいて、ちゃぶ台の反対側に
胡坐で座る。

セレナ わたくしからご説明いたします。宜しいでしょうか。

理一 もったいぶらないで教えてくれよ（少しイラついて）何が何だかわからないんだから！

セレナ 本日、土御門様に藤原の右府様からお下知がありました通り、明日、土御門様に辞令が発せられます。

理一 藤原の右府様？ それって部長のこと？

サヨ その通りでございます。宮内庁では部長になっていらっしゃるんですが、正式な官位は右大臣。よって、藤原の右府様と呼ばれていらっしゃいます。

理一 官位？ そんなの昔のことじゃないか？

セレナ それは表向きのこと。帝みかどに使える私どもは、表向きは宮内庁職員ですが、大内裏だいだいりでは官位を持って序されております。

理一 そんなこと一度も聞いたことがないよ！ だいだいりって、つまり、宮中？

セレナ はい、宮内庁でも幹部職員しか知らないことですから。そして、土御門様は明日から幹部職員となり、特別な官位が授けられるのです。

理一 それが、なんだっけ、だじょーかんとかいう？

サヨ その通りでございます。太政官は帝の側近であると共に、政まつりごとのかなめ、この国に最強の幸運をもたらす福の神でもいらっしゃいます。

理一 明日から俺がそうなるってこと？

サヨ その通りでございます。

理一はちゃぶ台をドンと叩いて、

理一 あーもーまどろっこしい！ そういう話し方も、俺を毎回、土御門様と呼ぶのもやめてくれよ！ 今までどおりにしれくれ、頼むよ。

セレナ そう命じてくだされば。

サヨ 私どもは従うのみでございます。

理一 よし！ わかった。じゃあ、そうさせてもらおう。
俺のことは今まで通り理一くんと呼べ。

「ございます」や「いらっしゃいます」はやめてくれ。

今までどおりの話し方にしてくれ。土下座もやめてくれ。

セレナ かしこまりました。

サヨ かしこまりました。

セレナとサヨは背を伸ばし、普通の正座になる。

理一 なんか、調子狂いっぱなしだよ、なんとかしてくれよ。

じゃさ、サヨ、教えてよ、太政官が福の神ってどういうこと？

サヨ 理一くんが想像している通り、太政官は宮内庁の役人の役職の一つ。

だけど、特別な役職。

それは太政官が他に類を見ない強い運を持っている者の仕事だから。

帝がいかにかうまく国を操^{あやつ}っても、すべては運に左右されちゃうの。

天候、天災、他国の干渉や介入・侵入、新興宗教や過激思想による内乱、

首相や官僚の失政や選択ミスなど…。

何が起こっても不思議はないし、実際に起こっちゃったし。

セレナ だから、圧倒的な強運が必要なのです。

理一 セレナ？

セレナ ごめんなさい。元の「ツンデレのツン」には戻れません。この話し方で勘弁してください。

理一 わかったよ。それで。

セレナ 理一くんは家系に定められた古来から最強の運を持つ、福の神の家系なのです。

理一 そんなバカな！ 俺なんてツキに見放されているほーだし、両親は早死にだし、じいちゃんは行方不明だし。

セレナ 福の神は隔世遺伝だと言われています。

理一 じゃあ、じいちゃんは…。

セレナ はい、今の帝の太政官でいらっしゃいます。

理一 生きてたんだ。じゃあ、なんで今まで連絡くれないんだよ！ 父さんも母さんもいなくなったのに！

理一、怒りで立ち上がる。

サヨ お身体の弱い今の帝につきっきりで離れることができなくて、それで私とセレナをここに寄せたの。

理一 そうだったんだ。

理一、ペタンと座り込む。

セレナ 私達は太政官の巫女の家系。生まれついてすぐに理一くんのお守り役に着くことが決まっていた。

理一 そ、そんな！ 自由とかないの？ それじゃ、ひどいじゃないか！

サヨ 理一くん、サヨは楽しかったよ。理一くんとデレデレできて。

セレナ 私もです。もっと、理一くんのそばでツンツンしていたかった。いえ、本当はその予定だったのです。

理一 え？ どういうこと。

セレナ 理一くんも宮内庁の人間だからお分かりと思いますが、数百年ぶりに帝のご勇退が決まり、何もかも変わってしまいました。

帝がおん自らの意思で帝位を退くことを決められたのですから、大変です。

帝の崩御を持って太政官も交代することがしばらくの間続いてましたので、明日のご就任も急に決まったのです。

サヨ そう、現太政官であるおじいさまの健康もすぐれないことから、理一くんの24歳の誕生日ということに。

理一 そうだったんだ…。

サヨの携帯から鐘の音がする。

セレナ 今日になってしまいました。

サヨ 0時になっちゃったね。理一くん、お誕生日おめでとう。

セレナ お誕生日おめでとうございます。そして。

理一 あ、ありがとう。え？

セレナとサヨは土下座に戻る。

理一 ど、どうしてまた土下座？

セレナ 今度はお詫びです。

サヨ いろいろごめんなさい、ホントにごめんなさい。

理一 えーと、面を上げよ。

セレナとサヨは低姿勢のまま顔を上げる。

セレナ 0時を過ぎて、理一くんが24歳になられたら、全てをお話して良いと言われてい
ます。

まず、こちらをお返しします。渡辺先生からの年賀状です。

セレナはわきにある袱紗ふくまから1枚の年賀状を取り出して、ちゃぶ台の上に載
せる。

理一 あ、あったの？ なんでセレナが持ってたの？

セレナ はい、お年玉年賀状の1等に当選していましたので、当選番号の発表と共に隠させ
ていただきました。

理一 ど、どういうこと？

セレナ さらに、横内先生からの年賀状、これも1等。そして、去年のが2枚、おととしの
が1枚、さきおととしのが2枚。

セレナはわきにある袱紗から次々と年賀状を取り出して、ちゃぶ台の上に
載せていく。

理一 ま、まさか？

サヨ そうなの。どれもお年玉年賀状1等当選。つまり、理一くん年賀状を送る人は、
手持ちのハガキの中から当選番号になるものを無意識に選んでたの。

セレナ はい、この他に2等が今年は3枚ありました（と、これもちゃぶ台の上に載せる）。

理一 まさか、それが福の神ってこと？

サヨ その通り。

セレナ これが私の毎年1月中ごろの仕事でした。正直なところ、今年は1等2枚、2等3
枚で計5枚も隠しましたので、理一くんバレないかと冷や冷やしました。

サヨ 理一くんが仕事で忙しくてチェックしなかったおかげで助かったんだよ。という

ことで…

セレナとサヨは土下座に戻る。

セレナ 申し訳ありませんでした。

サヨ ごめんなさい。

理一 わ、わかったよ、わかったけど、どうしてこんなことを？あ、えーと、面を上げよ。

セレナとサヨは低姿勢のままで顔を上げる。

セレナ 現太政官であるおじいさまからの指示です。福の神の異常な幸運に理一くんがおかしくならないように。

理一 そ、そういうことだったんだ。

サヨ おじいさまは、それはそれは困ったそうです。何もかもが当たるので。

理一 それって困ることか？

セレナ 人としての感覚がおかしくなると現太政官であるおじいさまはおっしゃってました。

理一 うーん、でもさ、じゃあなんでパチスロで勝てないんだよ。負けないけど。

セレナとサヨは土下座に戻る。

セレナ 申し訳ありませんでした。

サヨ ごめんなさい。

理一 わー、また？ あー、面を上げよ。

セレナとサヨは低姿勢のままで顔を上げる。

セレナ 私の細工です。パチスロの店長が協力してくれました。

サヨ だから、私と一緒に行って、いつも同じ店だったの。

理一くんが一人でパチスロ店に入ろうとしたら、その列の空き台は全て故障にしたり、私達の仲間がさっと席をおさえるという訓練までしてたんだよ。

でも、理一くん、一人では一度もパチスロ店に入らなかったよね？ 訓練はムダに

なっちゃったけど、私、なんだか嬉しかった。

理一 ああ、サヨと一緒にないと楽しくなかっただろうから。

サヨ えへ。

セレナはサヨを微笑ましく観てから居住まいを但す。

セレナ 私どもに残された時間が、もう少なくなっていました。

理一 え？ どうして？ 一緒に帝に仕えてくれるんじゃないのか？

サヨ 私達には「ぼうふざい」としての次の仕事が待ってるの、ごめんなさい。

理一 ぼうふざい？

セレナ そう、次は理一君の4代前で枝分かれしたもう一つの福の神の系統を継ぐ人の「ぼうふざい」になるんです。

理一 そんな…。

サヨ 私の役目は幸運があふれているのに実にならない福の神が、腐ってしまうのを防ぐこと。

サヨは「防腐剤」と大きく書かれた帽子を巫女服から取り出して被る。

セレナ 私の役目は福の神が引き当ててしまう豊かな富が、福の神の精神をおかしくしてしまうのを防ぐこと。

セレナは「防豊剤」と大きく書かれた帽子を巫女服から取り出して被る。

セレナ では、お名残り惜しいのですが、ここで失礼いたします。またお逢いできることはないかと諦めてくださいませ。理一くん、大好きでした。

サヨ 私も。つらいけど、さらにつらくなるだけなので、振り向かないで行くね。理一くん、愛してたよ。

セレナとサヨは走り去る。勢いでセレナの帽子が脱げて落ちる。

理一は唖然とした状態から覚めて、セレナの帽子を拾い上げる。

理一 行っちゃったのかよ。サヨ。セレナ。

理一はセレナの帽子を愛おしいそうに持ち上げて、ふと、気付く。

理一 セレナ、これさあ「ぼうふざい」じゃないじゃないか。豊富の「ふ」のつもりかよ。
こっちは「ほう」だよ。
これじゃ「ぼうほうざい」としか読めないよ。

理一は悲しげにうつむく。しかし、急に気が付いて叫ぶ。

理一 おーい！俺の宝くじはどうなったんだよー！？

幕